

リウマチクリニック

私の診療室 2

松野博明◎松野リウマチ整形外科

臨床の現場から 4

「現在治験中の有望な新しい抗リウマチ薬の紹介」 4
宮坂信之◎東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科膠原病・リウマチ内科学

「第8回 日本リウマチ実地医会」 8

「飛躍する日本リウマチ実地医会」 8

基調講演2 「欧米の関節リウマチ診療」 9

シンポジウム 「医療のIT化—現状と問題点、使用経験—」 10

トピックス2009 「関節破壊からみたリウマチの治療」 11

特別講演 「医師が知っておくべき医療法規」

法律知識について」 11

日常診療へのプラスα 12

「災害時のリウマチ患者に対するアドバイス」

羽生忠正◎長岡赤十字病院リウマチ・整形外科

Q&A 14

「DMARD治療の有用性について教えて下さい
(サラゾルフルファビリジン)」 14

近藤正一◎近藤リウマチ・整形外科クリニック

「DMARD治療の有用性について教えて下さい
(ブシラミン)」 14

安倍千之◎安倍内科医院

「DMARD治療の有用性について教えて下さい
(金チオリノゴ酸ナトリウム)」 15

山前邦臣◎新横浜山前クリニック

「DMARD治療の有用性について教えて下さい
(メトトレキサート)」 15

松原 司◎松原メイフラワー病院

私の趣味 16

「腹話術」 16

尾崎承一◎聖マリアンナ医科大学大学部リウマチ・膠原病・アレルギー内科

「ヴァイオリン」 16

小池隆夫◎北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科

情報提供 7

「ACR/EULARの関節リウマチ分類基準2009」

安倍千之◎安倍内科医院

【編集委員長(Vol. 11, 12)】

近藤正一(近藤リウマチ・整形外科クリニック)

【編集委員】

安倍千之(安倍内科医院)

松原 司(松原メイフラワー病院)

山前邦臣(新横浜山前クリニック)



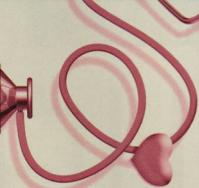
私の

診



療

室



RAへの 飽くなき探究心が原動力

地方から駆け上ったリウマトロジスト

松野博明

松野リウマチ整形外科院長

整形外科医ながら基礎分野への興味をもち、RA専門医を目指す

JR富山駅から一駅、メイン通りから少し路地を進んだところで、ひと際目を引く「松野リウマチ整形外科」の文字が記された巨大な看板が目に飛び込む。その傍らには、まるで通院する患者さんのために設置されたかのような病院前のバス停看板が2つある。2005年の開業ながら、今では連日大勢の来院患者を抱えるクリニックへ成長させたパワフルかつ繊細な手腕の片鱗が垣間みえた。

きっかけはサイトカインだった。松野先生が富山医科薬科大学(当時に移ったばかり)の30歳頃、ちょうどインターロイキンなどが次々と発見され、「これは面白そうだな」と知への興味をかき立てられたという。疑問があれば納得するまで妥協せずに取り組む性分の先生は、片っ端から論文を読み、ちょうどそのころからDMARDが始めたことも手伝って、「ここまで解明してきたのなら、もしかしたらRAは治せる



スタッフはここがクリニックであることを忘れそうなほど美女ぞろい。なかでも女性の柔道整復師は数が多く、みつけるのに苦労したそうだ。

病気になるかもしれない、やるなら人より先に結果を出したい」と希望を見出し、RA専門医を目指す決心をする。ところが地方なので免疫を専門とする指導者が近くにいない、毎週のように夜行バスで富山から東京へ通う日々が始まった。

「あのころは地方の大学で一人ぼっちの状態でやっていたから、とにかく追いつかなければという気持ちが強かった。研究会という研究会にほとんど行ったかな、時間がもったいないのでアルバイトもやめて、収入は減るけれども、人の倍やって初めて並べる程度だったから、始めたころなんて研究しようにも大学にリンパ球を測定する機械がなかったので、川越にある検査会社へ検体を持って行き、自分で測定していた」と松野先生は時間と金銭をやり繰りしながら、勉強と研究に明け暮れた当時の自分を労うように振り返った。そんなひた向きに努力する姿をみていた当時の整形外科の教授が、その後、当時まだ他科にもなかった数千万円もするリンパ球の測定機器を購入するよう働きかけてくれたという。向上心と行動力が周りの環境を動かし始めたのだ。

研究の環境が整うにつれ、1990年頃から松野先生は水を得た魚のように猛烈な勢いで論文を発表していった。「毎月のように書いていましたね。研究すればするだけまだ誰もやっていない新しい発見があったので、海外雑誌に論文を発表することができた」。すると今度は国から研究費が容易に下りるようになり、まさに正のスパイラル状態に突入していく。「RAの治療が、ただ痛みや腫れをとるのではなく、免疫を治す方向へ動き出した、すなわち1つの時代の変換期にいたことが、研究の面白さへつながった」と先生はさらりとうが、整形外科医でありながら免疫関係の学会の座長を務める先駆けとなり、数多くの海外の大学へフェローとして留

松野リウマチ整形外科

富山市呉羽町 7187-2

学するところまで駆け上った医師はそういうない。

薬物療法の基本はメトトレキサート

次に基礎研究から臨床へフィールドを移すべく、松野先生は開業を決意する。スポーツ医学も得意とする関係から集め始めたという野球選手のサンボーラやユニホームの膨大なコレクションは、待合室やリハビリ室の壁を飾り、クリニックからぬ明るい雰囲気を放っている。

DVDを観賞しながら点滴ができる立派な椅子を4台も設置している点滴専用室がありながら、「薬物療法の基本はDMARD. 特に、アンカードラッグであるメトトレキサート(MTX)は、引っ張るだけ引っ張って、最大用量まで增量する」というのが先生の方針。数多くあるMTXとの併用療法のエビデンスの中では、唯一、よい報告であるブシラミンとの併用を、生物学的製剤に進む前に必ず試している。MTX処方時には副作用予防のために葉酸1mgも合わせて処方する。これは近所の薬局へ交渉して、予め分包することで対応もらっている。結果、MTXの継続率はよいそうだ。生物学的製剤を使う場合は、金銭面を含めて納得がいくまで患者さんと話し合う方針である。

開業して意外だったことは、大学とは違って毎日診察できるため、たとえ副作用や合併症が起こっても発見が早く、深刻な状態になる例は予想していたより少ないことだという。患者さんも実地医であれば「明日診てもらえばいい」と安心できるので、大学で診ていたときのように、夜討ち朝駆けで電話が鳴ることはないそうだ。

一方、力を入れているのが、大きな病院では難しい、痒いところに手が届くリハビリである。松野先生は鎮痛効果やリラクゼーション効果のある機器のなかから、効果に非常にшибりアなプロ野球選手が使ってよいと認めたものだけを厳選して取り揃えている。長年の経験から、プロ野球選手の関節の故障に効くリハビリは、RA患者さんにも効果があるという。RAによるとわかれば、機器や設備を特注する手間も金銭も惜しまない。



1階が診察室と待合室、2階がワンフロア利用したリハビリ室。全館床暖房にして、冬でもスリップなしで歩けるようにしている。



プロ野球選手も愛用し、評価が高い関節用の超音波治療器。持ち運べるほど小さいが、なんと価格は大きなウォーターマッサージベッドと同等とか。



広々としたリハビリ室。エビデンスがあり効果を認めたりハビリ機器のなかから、厳選したものだけを取り揃えている。



ピクトグラムは松野先生のオリジナルデザイン。独創的な造形の2色使いですっきりとわかりやすい。

また、マッサージは専門家が行うほうが好みらしいという考え方から、2名の女性の柔道整復師がマッサージを担当している。あえて数少ない女性にこだわって探したのは、女性の患者さんが多いことへの配慮である。

今後は実地医がRA治療の主流に

開業して5年目の松野先生は「今、リウマチが面白い」と楽しそうに語る。実際、名のあるRA専門医が、現役中に辞めて実地開業医に転じるのも珍しいことではなくなってきた。十数年前であれば考えられなかったことである。「RAは開業しても以前と同じように治療が行える。しかも薬がしっかりと効くものに変革してきたから、手術までいく例は大幅に減った。今後、RAはかかりつけ医が主流に診る疾患の1つとなるのでは」と先生は大胆に予想する。さらに「実地医のボトムを上げるためにも、RA専門実地医の横のネットワークをより強固にし、日本におけるエビデンス性のあるデータをまとめる共同研究をしたい」と次なる大きな目標を豪快に掲げた。

そう遠くない将来、実地医によるRAに関する共同研究データを目にする日がくる予感がしている。

取材・文／羽野美香 写真／平山敏也